

別紙標準様式（第7条関係）

△ 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度 第1回枚方市病院事業運営審議委員会
開 催 日 時	令和元年6月5日（水） 15時30分から 16時30分まで
開 催 場 所	市立ひらかた病院 2階 講堂
出 席 者	委員：田口委員・堤委員・番匠委員・妹尾委員・丹生委員・ 藤本委員 病院：高井病院事業管理者・林病院長・坂根副院長・木下副院長・ 赤塚副院長・白石副院長兼看護局長・岡市事務局長 他
欠 席 者	原委員
案 件 名	1. 正副委員長の互選 2. 平成30年度市立ひらかた病院の業務状況について 3. 令和元年度市立ひらかた病院の運営方針について 4. その他
提出された資料等の 名 称	・平成30年度市立ひらかた病院の業務状況について ・令和元年度市立ひらかた病院の運営方針について
決 定 事 項 等	・病院事業運営審議委員会について公開することに決定した。 ・正副委員長を互選により決定した。
会議の公開、非公開の 別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者	—
所管部署（事務局）	市立ひらかた病院 事務局 経営企画課

審 議 内 容	
○岡市事務局長	<p>本日、令和元年度 第1回 枚方市病院事業 運営審議委員会を開催させていただきましたところ、委員の皆様には公私何かとご多用の中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。</p> <p>本日は、今年度、最初の会議となりますので、臨時委員長を選出いただくまでの間、私、事務局長の岡市が、司会・進行を務めさせていただきます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>まず始めに、病院事業管理者よりごあいさつを申し上げます。</p> <p>[高井病院事業管理者の挨拶]</p>
○岡市事務局長	<p>続きまして、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。</p> <p>[委員紹介]</p>
○岡市事務局長	<p>以上で、委員のご紹介を終わらせていただきます。</p> <p>続きまして、本日出席しております職員を順次紹介させていただきます。</p> <p>[職員紹介]</p>
○岡市事務局長	<p>以上で、職員の紹介を終わらせていただきます。</p> <p>それでは、4月より病院長に就任いたしました、林病院長よりひとことごあいさつを申し上げます。</p> <p>[林病院長の挨拶]</p>
○岡市事務局長	<p>それでは、臨時委員長の選出に移らせていただきます。</p> <p>本日は、今年度、最初の会議でありますので、委員長が選出されるまでの間、議会選出委員のうち年長の委員に臨時委員長の職務を行っていただきたいと存じますが、いかがでしょうか。</p> <p>< 「異議なし」 の声 ></p>
○岡市事務局長	<p>ご異議がないようですので、本日出席の議会選出委員中、堤委員が年長委員でございますので、堤委員に臨時委員長をお願いいたします。堤委員、委員長席にお着き願います。</p>
○堤臨時委員長	<p>ただいま、ご紹介・ご指名いただきました堤でございます。委員長が選出されるまでの間、臨時に私が委員長の職務を行います。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。</p>

	<p>会議に先立ちまして、事務局から委員の出席状況について、報告を求めます。岡市事務局長。</p>
○岡市事務局長	<p>委員の出席状況をご報告いたします。本日、ただいまの出席委員は、5名でございます。以上で報告を終わります。</p>
○堤臨時委員長	<p>ただいま報告がありましたとおり、出席委員は定足数に達していますので、これより令和元年度 第1回 枚方市病院事業運営審議委員会を開会します。</p> <p>それではまず、本会議の公開・非公開の取り扱いについてお諮りします。事務局から説明をお願いします。</p>
○小篠経営企画課長	<p>本会議は、「枚方市審議会等の会議の公開等に関する規程」における、非公開とできる事項のいずれにも該当しないことから、事務局としましては、公開とさせていただきたいと考えております。</p>
○堤臨時委員長	<p>事務局からの説明のとおり、公開とさせていただいてよろしいですか。</p> <p><「異議なし」の声></p>
○堤臨時委員長	<p>それでは、本委員会は公開とさせていただきます。本日、傍聴希望者はいらっしゃいますか。</p>
○小篠経営企画課長	<p>本日、傍聴希望者はいらっしゃいません。</p>
○堤臨時委員長	<p>それでは、これより案件第1「正副委員長の互選」に入りますが、委員長の選考・選出方法等について、ご意見をお聞かせ願いたいと思います。何かご意見等はございませんか。</p>
○番匠委員	<p>丹生委員にお願いしてはどうかと思います。</p>
○堤臨時委員長	<p>ただいま、「丹生委員に委員長を」というご意見がありました。これにご異議ありませんか。</p> <p><「異議なし」の声></p>
○堤臨時委員長	<p>ご異議なしと認めます。</p> <p>よって、丹生真人委員が委員長に選任されました。暫時休憩します。</p>

<p>○丹生委員長</p>	<p>(暫時休憩)</p> <p>委員会を再開します。 これより「副委員長の互選」を行います。お諮りします。 互選の方法は、指名推選によりたいと思います。 これにご異議ありませんか。</p> <p><「異議なし」の声 ></p>
<p>○丹生委員長</p>	<p>ご異議なしと認めます。 よって、互選の方法は、指名推選によることに決しました。 これより指名推選を行います。お諮りします。 指名推選の指名者は、委員長にしたいと思います。 これにご異議ありませんか。</p> <p><「異議なし」の声 ></p>
<p>○丹生委員長</p>	<p>ご異議なしと認めます。 よって、指名推選の指名者は委員長によることに決しました。 副委員長の指名を行います。 副委員長に田口敬規委員を指名します。お諮りします。 ただいま、委員長において指名しました田口敬規委員を副委員長の当選人と定めることにご異議ありませんか。</p> <p><「異議なし」の声 ></p>
<p>○丹生委員長</p>	<p>ご異議なしと認めます。 よって、ただいま指名しました田口敬規委員が副委員長に当選されました。 それでは、正副委員長の就任に当たりまして、代表して一言ご挨拶を申し上げます。 委員の皆さんのご推挙により、ただいま委員長に選出いただきました丹生でございます。 今年度の枚方市病院事業運営審議委員会の運営を担当する機会をいただき、大変光栄に思っております。田口副委員長と協力し、円滑な委員会運営に努めてまいりますので、なにとぞよろしくお願いいいたします。 簡単ではございますが、就任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。</p>

○丹生委員長	<p>これより、案件第2「平成30年度市立ひらかた病院の業務状況について」を議題とします。なお、本日の会議については、1時間程度と考えておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、事務局より説明を求めます。小篠経営企画課長。</p>
○小篠経営企画課長	<p>それでは、「平成30年度市立ひらかた病院の業務状況について」ご説明いたします。</p> <p>お手元にお配りしています「平成30年度市立ひらかた病院の業務状況について」をご覧ください。各指標を表形式で月別とその合計をお示ししているものでございます。</p> <p>また、プロジェクターに数値の推移と前年度比較をグラフでお示ししておりますので、あわせてご参照くださいますようお願いいたします。</p> <p>まず、入院業務の状況ですが、本院では、平成30年度の運用方針として、厳しい経営状況に置かれていることに鑑み、病院経営の健全化には入院収益を向上させることが特に重要であるとして、病床稼働率の向上をはじめとする入院患者を増加させるための取り組みを進めてまいりました。</p> <p>その結果、グラフでご覧いただくとわかりやすいかと思いますが、青色が平成29年度、赤色が平成30年度となっております。延べ入院患者数と1日当たり平均患者数のどちらもすべての月で平成29年度を上回っており、平成30年度の延べ入院患者数の合計は、6,303人増加し、お手元の資料のとおり93,097人となり、1日平均患者数は、17.3人増の255.1人となりました。</p> <p>次に、病床利用率ですが、この指標は本院の病棟ベッドの稼働率を表しておりまして、全日数の病床をどの程度利用されたかを算出しているものでして、100%であれば全ての日において満床で一年中ベッドの空きがなかったこととなります。この病床利用率も全ての月で前年度を上回っており、年間平均では前年度から5.4ポイント増加し、78.0%となりました。</p> <p>次に、入院診療単価につきましては、8月9月の2か月が昨年度を下回っておりますが、そのほかの月では上回っており、年間平均では、昨年度から2,502円増加し、56,504円となっております。次ページですが、入院収益は、入院患者、診療単価の増加によりすべての月で上回り、昨年度から年間で5億8,432万4千円の増収となり、合計52億6,157万円となりました。</p> <p>次に、外来業務の状況でございます。</p> <p>外来につきましては、初期医療は地域の診療所で、高度な医療は本院などの急性期病院で受け持つという、それぞれの役割のもとによる循環の推進が求められています。そのため、外来の</p>

数値は、ただ患者数が増えればいいということではなく、診療単価など他の指標がより重要と考えていることから、そういった観点でご覧いただければと思います。

まず、延べ外来患者数と一日平均患者数でございまして、延べ患者数は棒グラフでお示ししております。月によって昨年度と比べて増減がございしますが、合計では 3,456 人減少し、19 万 7,468 人となっています。また、折れ線グラフでお示しております一日平均患者数は年度によって開院日数が異なることから、延べ患者数の比較と逆転しているような月もございまして。年度平均では、14.2 人減少し、809.3 人となりました。

次に外来診療単価でございまして、5 か月は前年度を下回りましたが、その他の月の増加額が大きかったことから、年間で、昨年度から 212 円増加し、1 万 1,389 円となりました。

次に外来収益ですが、各月でばらつきはありますが、外来患者数が減少したものの、診療単価が増加したことにより、昨年度から 48 万 5 千円増加し、22 億 79 万 9 千円となりました。

3 ページにまいりまして、入院に大きく関連してくる、手術と救急外来の状況についてご説明させていただきます。

まず、手術件数と手術収益でございまして、手術件数は前年度と比較して 9 月で上回り、合計で 180 件増加し、3,199 件となっています。また、手術収益は、施術内容によって大きく変わるものですので、件数に沿った増減にはなっておりませんが、年間で、昨年度から 2 億 1,330 万 5 千円増加し、11 億 8,953 万円となりました。

次に、救急外来ですが、こちらは、救急搬送を受け入れた応需件数と救急搬送の要請があったものをどの程度受け入れたかを示す応需率でお示しさせていただきます。

本院では、自治体病院として果たすべき責務といった観点からも、断らない診療を標榜しており、それぞれの数値は、昨年度と比べてほぼ増加いたしました。年間応需件数合計では、751 件増加し、4,798 件となっており、応需率も年間平均で昨年度から 3.9 ポイント上昇し、88.7%となっております。

なお、こうした状況は経理面にも表れており、決算状況はまだ精査中ですが、昨年度は約 9 億 6,718 万円の純損失を計上しましたが、3 月時点で試算した金額で申し上げますと、会計処理の変更などもあるものの 1 億 3 千万円ほどの純損失となり、最終的な決算ではそこからさらに改善したものとなる見込んでおります。

平成 30 年度の本院の業務状況についてのご説明は以上でございます。

○丹生委員長	<p>これより、ご質問・ご意見をお受けします。 ご質問・ご意見はありませんか。</p> <p>(特に意見なし)</p>
○丹生委員長	<p>ご質問・ご意見もないようですので、本件は説明の聴取にとどめます。</p> <p>これより、案件第3「令和元年度市立ひらかた病院の運営方針について」を議題とします。それでは事務局より説明を求めます。山本経営管理室長。</p>
○山本経営管理室長	<p>それでは、案件第3「令和元年度(2019年度)の市立ひらかた病院の運営方針につきまして、プロジェクターに基づいてご説明させていただきます。</p> <p>まず本院の基本方針ですが、本院は北河内二次医療圏における唯一の市立病院として、基本理念として掲げる「心のかよう医療を行い、信頼される病院」のもと、患者の皆さんや地域の皆さんとの信頼関係を築き、安心と満足を得られる質の高い医療を提供することで地域への貢献に努めています。</p> <p>また、救急医療や小児、二次救急、災害時医療などの公立病院としての責務を果たしつつ、持続的な経営努力を重ね、地域に根ざした市民から信頼される病院であり続けるよう、職員全員が一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>今年度の具体的な運営方針についてご説明いたします。最初に経営健全化の取り組みに関する方針及び重点項目についてでございます。</p> <p>まず、これまでから行ってきた取り組みについて、病院経営の健全化には入院収益を向上させることが特に重要であると位置付けておりまして、先程からご説明させていただいておりますとおり、これまで病床稼働率80%を目標とし、入院患者の増加に繋がりますよう、地域の診療所への積極的な訪問等の「地域連携の強化」、これと断わらない医療を実現するための体制整備などの「救急患者の受け入れ促進」を取り組みの2本柱と位置づけ、取り組みを進めてまいりました。</p> <p>その結果、目標値には届かなかったものの、一定の収益の改善に繋がったものと考えております。今後もこのような取り組みを継続して更なる充実に繋げていくため、引き続き取り組んでいかなければならないと考えております。</p> <p>こうした取り組みに加えて、今年度の取り組みに関する主な重点項目について、ご説明させていただきます。</p> <p>まず、消化器センターの起ち上げでございます。</p>

本年4月1日に、これまでの消化器内科と消化器外科を統合し、新たに『消化器センター』としてオープンしたものです。

がんを始めとした最も症例の多い消化器疾患に対し、専門性の高いスタッフが緊密な連携をとり、チームとして最適な治療は何かを検討し、安全、迅速に治療することを考えているものです。

また、診療にあたっては、医師、看護師は勿論ですが、リハビリ、放射線や栄養士等の多様な職種が一丸となったチーム医療を目指して、退院まで万全の体制で臨んでまいりたいと考えております。本院では、これまでも充実した診療を行うため、医師の確保に努めてまいりましたが、今回の消化器センターでは、医師の増員も図られ、結果として食道、小腸、大腸、肝臓、すい臓など、臓器ごとの専門性の高い医師を配置することとなっております。

この消化器センターのオープンを積極的に情報発信し、市民の皆さんや地域の診療所に知っていただき、「消化器の治療は、ひらかた病院」と思っただけのような、信頼を獲得することで、紹介患者や救急搬送患者の増加、また収益性の高いとされる手術件数の増加などの好循環を生み出し、その結果、病床利用率、診療単価や収益の向上に繋がっていく効果に期待しているところです。

続きまして、消化器センター以外に本院の経営改善の取り組みとして、一昨年度に厳しい経営状況に鑑み、職員で構成します「緊急経営改善チーム」を設置しまして、各種の取り組みを行いました。昨年度には新たに外部から経営コンサルタントを導入し、民間の病院経営に関する豊富な経験に基づきまして、他病院の取り組みなどを参考に、目標の設定やその目標に向けた具体的な取組方法について、各職場とのディスカッションを通じてご意見をいただいております。この経営コンサルタントとの取り組みにつきましては、昨年度は、主に看護局や事務局、コメディカルとのディスカッションを行ってまいりましたが、今年度は医師を対象に、患者数の多い診療科や政策医療を実施する診療科など、優先順位を決めて行ってまいりたいと考えております。

ここまでが経営改善に関する主な取り組みでございますが、本院は公立病院ですので、並行して公立病院として果たすべき責務としての活動や診療も積極的に行っていかなければならないと考えております。そういった面では政策医療の充実が重要となっております。主なところでは、本院では24時間、365日の救急診療体制を整備しており、救急医療の充実に努めております。また、大阪府に第二種感染症医療機関として指定され

	<p>ており、地域の感染症医療に中心的な役割を果たしていく必要があります。また大阪府がん診療拠点病院として、がん診療の充実を図っている他、緩和ケア病棟を備えており、がんの痛み の緩和や、精神的なケア等の緩和医療の提供を行っております。特に救急医療に関しましては、地域の中核病院として救急搬送患者の積極的な受け入れ促進を行っているところです。平成 30 年度における枚方寝屋川消防組合からの搬送人数について、救急搬送患者数、33,836 件のうち、4,549 件と市内で最も多く受け入れを行ったところです。</p> <p>また、本院は「災害医療センター」と位置付けられており、災害時に患者の命と安全を守るのは勿論、本市の医療救急活動の拠点として、迅速かつ適切な医療救護活動を担っております。今年度は、昨年度に起こった大阪北部地震や台風 21 号での経験を活かすため、本院で作成する「災害対応マニュアル」の改訂を行う他、職員の危機管理の意識やスキルの向上を図る観点から、総合的な災害医療訓練を実施する予定をしております。</p> <p>最後になりますが、こうした本院の魅力や診療活動等を市民の皆様へ知っていただくため、積極的な情報発信に力を入れております。情報発信については、ホームページの充実は勿論ですが、昨年からは本院の魅力を気軽に知っていただくためのツールとして、病院のインスタグラムを開始しました。また近隣の関西外国語大学の学生と地域の方々に、本院の魅力を感じていただくための活動として、イベントを開催し、昨年度も多くの近隣の方にご参加いただいております。他にも医療的なセミナーや講座の開催や、地域の診療所を対象とした機関紙の発行など、様々な形での情報発信を行うことにより、市民の皆様へ、この地域にひらかた病院があって良かったと感じていただけるよう、取り組んでまいりたいと考えているところです。</p> <p>以上、令和元年度市立ひらかた病院の運営方針についての説明とさせていただきます。</p>
○丹生委員長	<p>これより、ご質問・ご意見をお受けします。 ご質問・ご意見はありませんか。番匠委員。</p>
○番匠委員	<p>目標とされている病床利用率の 80%は、イコール黒字化となるのでしょうか。また取り組みの二本柱の一つである、地域連携を強化のため、訪問回数の増をあげていますが、増加しているのかお伺いします。</p>
○高井病院事業管理者	<p>平成 31 年度の予算については病床利用率が 80%として予算を編成しております。本院は新病院として開院した平成 26 年度以</p>

	<p>降の経営計画におきまして、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間は医療機器の償還が負担になるということで、赤字の決算になる計画の下で新病院を整備しております。それを踏まえ平成 31 年度も病床利用率 80%の目標で、予算上では赤字となっておりますが、平成 32 年度からは医療機器の償還が終わるということで、以降は黒字という見込みとなっております。</p> <p>平成 30 年度の決算について、先程少し説明がありましたが、想定していたものより大きく好転しております。引き続き今年度においても病床利用率 80%、更に上を目指すことで、収支の改善に努めてまいりたいと考えております。</p>
<p>○松村医療相談・連携室課長</p>	<p>各医療機関への訪問回数について申し上げます。</p> <p>現在のところまとまった訪問活動は実行できていませんが、昨日、本院が発行する機関紙「かわせみ」の印刷が完了したばかりであり、準備が整い次第、来週から登録医療機関を中心に訪問活動を開始する予定です。</p>
<p>○藤本委員</p>	<p>消化器センターについてお伺いします。</p> <p>枚方には、心臓に強い病院、脳に強い病院等があるのですが、消化器に強い病院が少なかったように思います。</p> <p>消化器センターは、いわゆる時間外、例えば夜中の吐下血等に対応していただけるのですか、お伺いしたい。</p>
<p>○林病院長</p>	<p>市民からの要望があり、消化器に強いセンターが無いということもあり、消化器センターを起ち上げました。まず目標としましては、医療機関からご紹介いただく緊急症例等にスムーズ対応できることですが、現時点でその全てをセンター受け入れできるようなそこまでの陣容ではありません。近い将来、緊急症例等にも対応できるように準備を着々と図っております。陣容の強化もありますが、現在は地域の医療機関に周知させていただくことに鋭意努力をしているところでございます。</p>
<p>○堤委員</p>	<p>災害時に、病院の電気や水が止まったとき、どのくらい日数を維持できるのかということと、患者さんを除いて医師や看護師についての備蓄品は整えられているのかをお伺いします。</p>
<p>○松下総務課長</p>	<p>まず電気ですが、全く制限せずに使用した場合、3 日間使用できます。コンビニエンスストアやエレベーター等を節電しながら使用した場合は、約 1 週間使用できます。備蓄品については、入院患者様の分については 3 日間分の食糧を常に備蓄しておりますが、職員については、チームなど各自で備蓄しているもの</p>

<p>○堤委員</p>	<p>もありますが、病院として公費による用意はしておりません。</p> <p>先程自己管理されているチームがあるとのことですが、患者さんの分は勿論大事ですが、患者を診療する医師や看護師の分について検討いただきたいと思います。</p> <p>また、地域包括ケアの中心ということで、患者さんが病院で急性期の治療を終えて地域の医療機関に帰ることになりますが、退院後のサポートというのは、地域の病院と連携して行っていくような体制であるのかをお伺いしたい。</p>
<p>○松村医療相談・連携室課長</p>	<p>地域医療機関へのサポート、後方支援ということになりますが、地域連携室のスタッフが連携をとり、地域の医療機関へご案内するというサポートを行っています。その後、先方で不具合がございましたら、連絡が入るというシステムになっております。また、啓発活動の中で本院が目指す地域一体型医療を説明するためのポスターを作成しております。本院と地域の医療機関との役割を市民の皆様にもご理解いただけるようなものとなっております。</p>
<p>○堤委員</p>	<p>早く退院されて、地域の病院に長く通われることになると思いますが、通われていて不安になったときに、元々の診療を受けていた市立ひらかた病院の方でも、相談等できる体制にあるのかと思ひ質問をしました。その辺り無ければご検討いただきたいと思います。</p> <p>また、急性期の病院で治療された後、特に高齢者ですが、退院しなければならないが、次の病院が見つからないということをよくお聞きします。なかなか難しいかもしれませんが、市立ひらかた病院としては、全体の流れを見ていただき、支援をしていただきたいと思います。</p>
<p>○妹尾委員</p>	<p>先程、平成 31 年までで設備投資の償却が終わり、平成 32 年度から黒字とのことですが、医療の設備も古くなり、医療の質を上げるためには、設備を新しくしなければならないとなると、新しく投資をして、そこから更に償還が始まるということになります。昨年は資本金を減資して、累積欠損金を 1 億円ほどに無くされました。赤字になり税金で補填ということになれば、これは大変なことです。平成 32 年度が黒字とこのこと計画ですが、若干疑問に思いますし、細かく精査していただきたいと思ひます。</p>
<p>○丹生委員長</p>	<p>他にご質問・ご意見もないようですので、本件はこの程度にと</p>

<p>○堤委員</p>	<p>どめます。</p> <p>次に、案件第4「その他について」を議題としますが、何かございますか。堤委員。</p> <p>耳の不自由な方や、通訳の必要な外国籍の方への対応についてお伺いします。耳の不自由な方からお手紙をいただき、手話通訳を病院に常駐させて欲しいという要望もいただいております。アイパッド等を使用することもできると思いますが、その辺りについてお伺いしたい。</p>
<p>○松下総務課長</p>	<p>まず、外国籍の方への対応ですが、本院では5ヶ国語に対応するタブレットを使用する通訳サービスを実施しております。</p> <p>聴覚に障害のある方の手話通訳についてですが、枚方市の方で事前にご予約していただき、一緒に来院していただいているところです。いわゆる障害者差別解消法の主旨は勿論ですが、ネットワーク、人材、財源などの様々な課題も踏まえまして、何ができるかということを検討してまいりたいと考えております。</p>
<p>○堤委員</p>	<p>是非、早期に検討いただき、ご要望に応じていただきたいと思っております。また、いわゆる耳が遠い高齢者への対応についてですが、医師等から大きな声で病状を聞くこともできないでしょうから、何か先進的な技術等を導入するなど、不自由の無いようにご検討いただきたい。</p>
<p>○田口副委員長</p>	<p>何か特化して、例えば外国籍の方の通訳や、耳の不自由な方の手話通訳などで、ひらかた病院に行けば対応してもらえというようになれば、他から患者さんが集まるという発想で、収益改善という手法もあるのではないのでしょうか。</p>
<p>○高井病院事業管理者</p>	<p>病院として何か特色を作っていくことは必要であると思っております。聴覚障害への対応について手話通訳者となると日中では時間の制限もありますので、入院されている方とのやり取りには、タブレットなど様々なものを使ってまいりたいと考えております。先程申し上げた外国語対応のタブレットサービスについては、24時間、各言語の医療専門の通訳者が対応するネットワークのサービスに加入しておりますので、かなりの効果に繋がっていると考えております。またこのようなことを情報発信してまいりたいと考えております。</p>
<p>○丹生委員長</p>	<p>他に報告事項等はありませんか。</p>

<p>○林病院長</p>	<p>以上で、本日の案件はすべて終了しました。これで本日の議事を終了します。閉会にあたり、病院長からご挨拶をお受けします。林病院長。</p> <p>本日は令和元年度第1回枚方市病院事業運営審議会にお集まりいただきありがとうございました。先に事務局次長より申し上げた本院の基本理念である「心のかよう医療を行い、信頼される病院」というモットーは、令和になってもぶれずに更に充実させていきたいと考えております。また、市立ひらかた病院があるから枚方で安心して暮らせるというのが、究極の目標です。今後もぶれずに持ち続けていきたいと考えております。</p> <p>本日、ご審議いただいた内容、いただいたご意見を検討しまして、今後の改革に努めてまいりたいと考えております。本日はありがとうございました。</p>
<p>○丹生委員長</p>	<p>以上で、本日の会議を閉会します。長時間にわたり、お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: right;">(以上)</p>